



第二回 森愛CLUB講演会

命の協奏曲 「人と動物への愛と健康」

講演会に参加して

かぎひの文庫代表 磐崎 文彰

この方は愛の人なんだといつも思う。話す内容に時に激しく、攻撃的になることもあるのだが、その根底には愛があり、なんとしても人を救いたいという強い意志がある。そしてそれは人間への愛だけではなく、動物への愛もあったのだと今回の講演会で知ることになった。

今回のゲストが佐良直美さんと聞いて、「なぜ？」と思った。鶴見先生の活動とつながりが分からなかったから。殺処分される犬を保護して育てているという佐良さんに鶴見先生が深く感銘して今回のゲストとしてお招きしたとわかって、あらためて鶴見先生の優しさに打たれた。

今回の講演会では鶴見先生がご自宅で飼われている猫の写真なども披露され、愛猫について話すときの鶴見先生はなんとも可愛らしく、先生の意外な一面を見ることができた。

先生に初めてお会いしたのは今から4年前。放線ホルミシスの服部禎男先生が鶴見先生の講演会にゲストと呼ばれ、服部先生の本を作ったことち、強い信念をもって突き進む姿がそう思わせたのだろう。この頃から、鶴見先生の本を作らせていただきたいと思うようになった。先生の訴えを多くの人に広めるお手伝いをしたいと。

こうして誕生したのが『健康常識のウソに騙されず長生きするための88の知恵』という書籍である。鶴見先生が講演会でお話になる内容をコンパクトにまとめた本だ。鶴見先生のお話を聞き、この本を作ることで、自分の食生活やライフスタイルは一変した。この本に書かれていることをすべて実践するのは難しいかもしれないが、出来るものから始めればいいし、そういうことを意識することがまず大事なことなんだと思う。鶴見先生と出会わなければガンになった父に、医者と言われるままに抗がん剤を使わせていたかもしれない。そうしていたら今頃父はどうなっていたらどうかと考えることがある。

世の中には正しいと思われていても実は間違っているということがたくさんある。間違っていることを平気な顔をして話す人もいる。鶴見先生が講演会でよく「医者への反対はアヤシイ」薬の反対はリスク」とお話しになるが、怪しいのは医者だけにとどまらない。

文化人、政治家から新聞、雑誌、メディアなど、一方的に信じるのは危険極まりない。日本人は素直でなんでも信じてしまうことがある。それは美德でも

もあって、その講演会に参加させていただいたのがきっかけだった。それまで酵素のことなどまったく知識がなく、いわゆる「健康常識」を信じていたので、鶴見先生の話す内容は衝撃的で、なぜこのことが広まらないのか不思議でたまらなかった。と同時に、怒りもわいてきたのを覚えている。その感覚は服部先生から放射能の真実を聞いた時と同じ感覚だったと思う。

明らかな真実があるというのに、既得権益や金のために何もせず、知っていても真実を語ろうとせず、ただ保身に走る人たちがばかり。そんななかで鶴見先生や服部先生は何も恐れず、真実を堂々とお話しになる。その姿は神々しくも見えた。

講演会終了後には懇親会にも参加させていただいた。運よく鶴見先生の近くの席に座ることができ、その場で間近に接することができた。壇上で拝見した正義感の塊の闘士のようなイメージと打って変わって、気さくでチャームिंगな面をうかがい知ることができ、すぐにファンになってしまった。その後、別の講演会で再び鶴見先生のお話を聞く機会があり、あらためてご挨拶させていただいた。この時はたしか中矢伸一先生の主催するイベントだったかと思う。現代の医療も問題点を鋭く指摘し、その改善点を提示して下さっていた。その時に感じた鶴見先生の印象は織田信長だった。既成概念や古い因習などにとらわれず、広い視野と真実を見抜く目を持つ

あるかもしれないが、そのために自分の健康を損なってしまうはどうしようもない。善意の世の中であればそれは通じるが、今の世の中は悪意も氾濫していることに気づかなければいけない。

某大病院の先生が「ガンになってもほっておけ」というような本を書き、ベストセラーになった。抗がん剤は飲まない方がいい、というところまではいいとして、その先の解答が何もなく、これでも医者かと憤慨したことがある。鶴見先生にはその先がある。ガンにならないためにはどうすべきかの答えもある。鶴見先生は、人を救いたいからという「愛」にもとづいている。これこそが本当の医者だと思う。

今年中に鶴見先生の玄米に関する本を出版する予定で準備を進めている。おかげで最近では玄米生活で体調もすこぶる良い。「天国行きの玄米、地獄行きの玄米」といった内容になる。こちらもご期待いただきたい。

